



---

# グリーンリストWGにおける これまでの議論と今後の対応について

---

2026年3月24日

環境省 大臣官房 環境経済課 環境金融推進室

# グリーンリストに関するワーキンググループ設置の経緯とスコープ

- 2022年度のグリーンファイナンスに関する検討会においては、以下の論点が示された。
  - 今後も我が国のサステナブルファイナンス市場をさらに発展させていく観点からは、特に**新規調達者・分野への裾野拡大が求められ、そのためにはグリーンな資金用途に関するリストの更なる拡充が有用**であること、
  - リストの拡充にあたっては、国内外の動向や市場参加者の知見を採り入れつつ、ガイドライン付属書 1 別表の例示を定期的に更新し、**市場、政策、技術等の動向を継続的に反映する新しい「仕組み」の構築**が求められること
- 上記を踏まえ、2023年年度からグリーンファイナンスに関する検討会の下に、「**グリーンリストに関するワーキンググループ**」を設置し、グリーンプロジェクト等を例示した付属書 1 別表の拡充を検討していくこととなった。

## グリーンボンド等のガイドラインの構成とWGのスコープ

### グリーンボンド及びサステナビリティ・リンク・ボンドガイドライン 2022年版

第1章 はじめに	21
第2章 グリーンボンド	30
第3章 サステナビリティ・リンク・ボンド	59
第4章 投資家に望まれる事項	71
第5章 本ガイドラインの改訂	72

### グリーンローン及びサステナビリティ・リンク・ローンガイドライン 2022年版

第1章 はじめに	73
第2章 グリーンローン	81
第3章 サステナビリティ・リンク・ローン	108
第4章 貸し手に望まれる事項	119
第5章 本ガイドラインの改訂	120

### グリーンリストに関するWGのメインスコープ



付属書1 明確な環境改善効果をもたらすグリーンプロジェクトの判断指針	121
付属書2 環境改善効果の算定方法の例	131
付属書3 レポートの例	139
付属書4 KPIの例	142

※参考：付属書 1 はグリーンボンド及びグリーンローンの対象となるグリーンプロジェクトに関する付属書である

# 今年度の優先課題

- 昨年度WG及び第7回WGでの議論を踏まえ、以下の優先的に検討すべき課題（優先課題）を中心に改訂に向けた議論を進めてきた。

## <検討課題と優先課題>

青字：優先課題（昨年度から継続）

赤字：優先課題（今年度新規）

### 主な検討課題

検討課題①：新規策定又は改訂が行われた国内計画等に基づいた資金使途例等の拡充

検討課題②：ヒアリング・発行事例等に基づいた資金使途例の拡充

検討課題③：グリーンプロジェクトに寄与する事業の考え方の整理

検討課題④：国際的なガイダンス等に基づいた資金使途例等の拡充

検討課題⑤：各大分類に係る法令・計画・制度・基準等に関する考え方の整理

検討課題⑥：研究開発の対象や考え方

検討課題⑦：資源循環に関する小分類の更なる整理

検討課題⑧：ネガティブな環境効果の更なる整理・充実化

優先課題として  
検討・整理を実施

※優先課題は優先度及び想定される検討作業量も踏まえて選定

## 検討課題①【優先課題】 新規策定又は改訂が行われた国内計画等に基づいた資金使途例等の拡充

### これまでの主な議論と今後の対応

- 昨年度のグリーンリストの改訂以後に新規策定又は改訂が行われた環境分野における国内計画や発行事例等を確認し、グリーンリストへの追記・修正事項を検討した。
- 環境分野の国内計画等に限らず、他省庁への照会等を実施し、追記・修正事項がないかを確認した。

### 今後の対応

- 第9回WGでの議論も踏まえて改訂案を作成。4月以降に改訂版の公表を目指す。
- 来年度以降も引き続き作業と情報収集を実施。

#### (参考) 今年度WG (第7回・第8回) 及びヒアリングにおける主なご意見

- グリーンリストは例示の一覧として、数値基準より例示の充実を優先すべきである。
- グリーンリストの拡充が企業の新たな気づきを促し、グリーン投資の裾野を広げるきっかけになるだろう。
- 時代の変化に応じて項目を削除することも議論していくべきである。
- ポータルサイトの整備やイベントの充実化といった、プロジェクトに繋がる一歩手前の普及啓発活動などのソフト面についても充実できるのであればよい。
- 「みどりの食料システム法」に基づく認定計画に加え、GAP（農業生産工程管理）認証も指標として追加を検討してはどうか。
- 農業分野においては、J-クレジット制度の方法論を参考に記載を拡充できるのではないかと。

## 検討課題②【優先課題】 ヒアリング・発行事例等に基づいた資金使途例の拡充

### これまでの主な議論と対応

- 地域的な資金調達の実例、ブルーインフラ・グリーンインフラ、エコツーリズム、汚染削減等に関する発行事例等を確認し、資金需要を踏まえた資金使途例の拡充可能性について、議論を行った。
- 「適応」「グリーンインフラ」について、資金調達者へのヒアリングを実施し、資金需要を踏まえた資金使途例の拡充可能性について、議論を行った。

### 今後の対応

- 第9回WGでの議論も踏まえて改訂案を作成。4月以降に改訂版の公表を目指す。
- 来年度以降も引き続き作業と情報収集を実施。

### 今年度WG (第7回・第8回)及びヒアリングにおける主なご意見

- 適応について、自然災害のリスクが顕在化している分野や影響が大きい分野における重要性が高まる。
- 自治体を中心に、インフラのレジリエンス向上への投資ニーズが高まっている。
- 風水害対策等、気候変動適応の観点でも効果があるものは、含める余地があるのではないか。
- グリーン・ソーシャルいずれにも分類されうる場合、インパクト指標を含めどのように整理すべきか。
- 生物多様性分野においては、プロジェクトが小規模であり、インパクトの定量化が難しい。
- グリーンビルの資金使途の目的として、生物多様性の要素が含まれている場合もあり、目的が見える形で生物多様性の取組が表出するように、資金使途の分類を改善してほしい。
- 生物多様性に関する取組はグリーン性を発揮するまでに時間を要するため、長期的にグリーンに向かう活動についても、過程を適切に評価するための指標が今後必要になる。
- ネガティブな環境効果は、実際の現場で生まれるものが多いことから、「ネガティブな環境効果の更なる整理・充実化」も併せて情報収集を行ってほしい。
- 中小企業や地域金融機関によるトランジションやグリーンなどの発行事例を確認すると良い。
- 建設分野に関し、特徴的な優れた環境改善効果がある場合、その特徴を有する建物全体や関連する研究開発を資金使途の対象とできないか。

## 検討課題③【優先課題】 グリーンプロジェクトに寄与する事業の考え方の整理

### これまでの主な議論と対応

- 2025年6月に改訂されたグリーンボンド原則（GBP）では、グリーンイネーブリングプロジェクトが適格なグリーンプロジェクトの成立及び実行に必要な構成要素であることが記載されたことを踏まえ、グリーンリストにおける対応を検討した。
- グリーンプロジェクトに寄与する事業について、グリーンリストのカバーページの注釈の1つとして記載することとし、記載内容について議論を行った。

### 今後の対応

- 第9回WGでの議論も踏まえて改訂案を作成。4月以降に改訂版の公表を目指す。
- 来年度以降も引き続き情報収集を実施。

#### 記載案：

- グリーンイネーブリングプロジェクトとは、たとえそのプロジェクト自体が直接的な環境目的を達成しない場合でも、グリーンプロジェクトのバリューチェーン（とりわけその成立、製造、実施又はスケールアップに関連して）必要な要素であるプロジェクトを指す。グリーンイネーブリングプロジェクトの資金を調達しようとする資金調達者は、ICMAの「グリーンイネーブリングプロジェクトガイダンス文書」を参照し、資金調達を行うことも可能である。

## 検討課題④ 【優先課題】 国際的なガイドンス等に基づいた資金使途例の拡充

### これまでの主な議論と対応

- 国際金融公社（IFC）や国際資本市場協会（ICMA）等より公表されている各種国際的なガイドンスの内容を踏まえ、環境改善効果を算出する際の具体的な指標の例の追加可能性について、議論を行った。

### 今後の対応

- 第9回WGでの議論も踏まえて改訂案を作成。4月以降に改訂版の公表を目指す。
- 来年度以降も引き続き作業と情報収集を実施。

#### 今年度WG（第7回・第8回）及びヒアリングにおける主なご意見

- グリーンボンドガイドラインはICMAのグリーンボンド原則を解説する文書であり、グリーンリスト拡充の際に参照対象となる国際的なガイドラインの範囲を過度に拡大することは難しいのではないかと。
- 国際的なガイドラインを参照するにあたり、調査対象のガイドンス等の選定基準の明確化が必要。
- 資源循環分野は日本が強い領域でもあり、WBCSDが「Global Circularity Protocol for Business」を公表するなど開示についての国際的な議論も進展していることから、グリーンリストで可視化する方針も良い。
- GCPなどは是非加えてほしい。IFC等の指標も参考にし、グリーンリストを幅広く記載すると良い。
- ネイチャーポジティブやブルーなど、グリーン概念の広がりにも寄与するものとして、IFCやICMAのガイドライン等を参照すると良い。
- ハイブリッド自動車やSAF等、国際的にトランジションとの整理が議論されているものについては、国や業界、あるいは国際的な基準を満たす必要がある旨を注記等で明確化することが必要ではないかと。
- トランジションとグリーンとの峻別については議論の過渡期にあり、グリーンリストにおいてその峻別について検討することは時期尚早ではないかと。
- 日本のグリーンファイナンスにはトランジション要素が含まれているという見方をされることを避けるため、グリーンとトランジションの整理を注釈に記載する必要があるだろう。
- ICMAが定めるグリーンボンド原則と環境省が策定するガイドラインの関係性が、発行体の立場からは明確に理解できていない部分があるため、整理して分かりやすく示してほしい。

# グリーンリスト（付属書1別表）の位置づけ

- **目的：資金調達者の潜在的な需要を喚起し、またグリーンプロジェクト検討の際の目線を提供することにより質の担保にも貢献することで、グリーンファイナンス市場の発展を目指す。**
- グリーンリストは、ICMAのグリーンボンド原則において示されている資金使途の例示の分類を元に、国内外の知見や発行実績等を踏まえ、**グリーンプロジェクトとして整理され得るものを例示したもの。**
- いずれの項目に関しても、**包括的な分類を意図したものではなく、ここに記載の内容に限定されるものではない。**
- ネガティブな効果に関する指標は、**環境面からのネガティブな効果として想定される主要なものを列挙したものであり、事業内容等によっては、これら以外の環境面からのネガティブな効果もありうるほか、社会面からのネガティブな効果等も想定されることから、個別事例に応じて検討することが重要。**（「付属書1 明確な環境改善効果をもたらすグリーンプロジェクトの判断指針」を参照）
- これらの観点から、以下の修正を実施。
  - 関係する政府の計画等や、現在の市場における発行動向及び国際的な議論の進展も踏まえて、記載を修正。
  - カバーページの注の性質を踏まえて整理を実施。一部記載箇所を変更。
  - グリーンイネービングプロジェクトについての記載を追加。
  - プロジェクトの実施時に地域共生への配慮や、ネガティブな環境効果の例の記載を拡充。
  - 視認性の高いリストの性質を維持するため、小分類3-1及び大分類9に小見出しを追加。

---

## 今年度の改訂スケジュール

---

# 今年度の改訂スケジュール

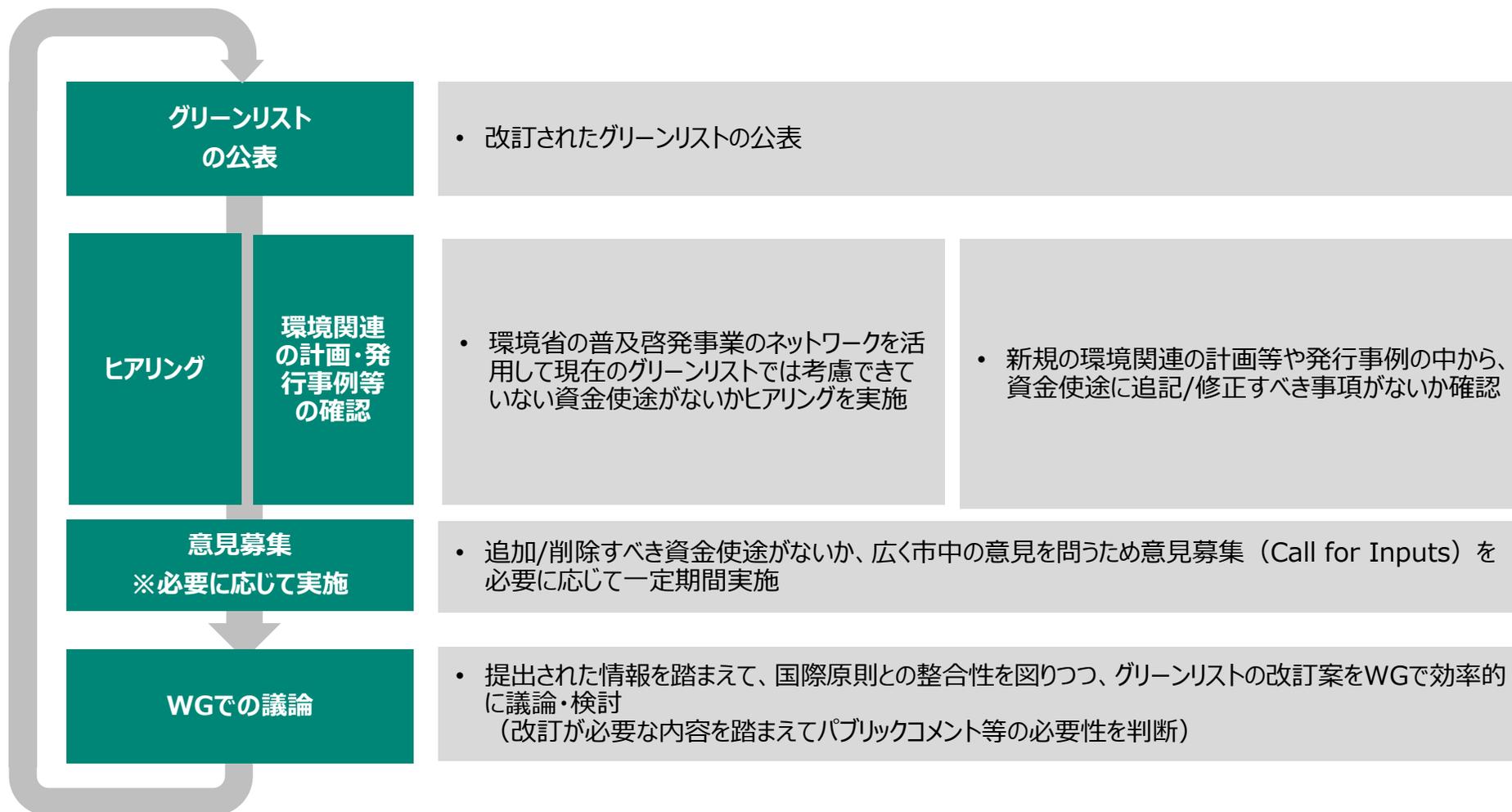
- 昨年度に引き続き、計3回WGを開催。また、WG間において企業・自治体へのヒアリング等を実施。

## <改訂スケジュール（案）>

開催時期	実施項目	実施概要
2025年9月	意見募集	<ul style="list-style-type: none"> <li>グリーンリストに関する意見募集（Call for Inputs）を実施（9月2日～10月15日）</li> </ul>
2025年10月	第7回WG	<ul style="list-style-type: none"> <li>今年度改訂にむけた検討の方向性について</li> </ul>
⋮	WG間の検討①	<ul style="list-style-type: none"> <li>事務局にて文献情報の収集・整理、改訂方針の検討を実施</li> <li>ヒアリング調査（金融機関、事業会社等へのヒアリング）</li> </ul>
2026年1月15日	第8回WG	<ul style="list-style-type: none"> <li>グリーンリストの改訂方針（案）について</li> </ul>
⋮	WG間の検討②	<ul style="list-style-type: none"> <li>事務局にて追加情報の収集・整理、グリーンリスト改訂（案）の検討を実施</li> </ul>
2026年3月12日	第9回WG	<ul style="list-style-type: none"> <li>グリーンリストの改訂（案）について</li> </ul>
2026年3月24日	親検討会への報告	<ul style="list-style-type: none"> <li>グリーンファイナンスに関する検討会への報告</li> </ul>
2026年4月以降	改訂案の最終化・公表	<ul style="list-style-type: none"> <li>グリーンリスト改訂（案）の最終化作業・公表</li> </ul>

# 来年度のグリーンリスト改訂に向けた作業サイクル（案）

- 国際原則や国内計画等との整合性を図るための継続的な改訂に加え、資金需要の顕在化、質の担保のために、来年度は今年度の改訂サイクルを踏まえた下記のとおりリストの更新を実施する予定。



# 来年度以降も継続的な検討が必要な事項について

- 昨年度まで及び今年度WG（第7回・第8回）の議論においていただいたご意見のうち、今後も引き続き検討が必要な事項は以下の通り。（今年度改定案で一部対応）

## <今年度改訂案に未反映（一部反映含む）のご意見>

分類	具体的なお意見
グリーンプロジェクトの考え方・気を付けるべき視点	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ 時間軸を踏まえた評価が必要               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 循環経済の取組は時間軸で評価が変わりうる</li> <li>・ 生物多様性の取組はプロジェクトがインパクトを発現するまでに時間を要するその過程の適切な評価が必要</li> </ul> </li> <li>■ 研究開発の考え方の整理が必要               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 研究開発は実社会へのインパクトを起こすまでの時間・内容など別の評価が必要ではないか</li> <li>・ 建設分野に関し、特徴的な優れた環境改善効果がある場合、その特徴を有する建物全体や関連する研究開発を資金使途の対象とできないか</li> </ul> </li> <li>■ ネガティブな効果の扱い               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ カーボンニュートラル・サーキュラーエコノミー・ネイチャーポジティブの複合的な事業を行う場合、ネガティブ面とポジティブ面を組み合わせる事業もありうるだろう</li> </ul> </li> </ul>
リスト拡充の案	<ul style="list-style-type: none"> <li>■ ネガティブな効果の充実化               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 大分類によってはネガティブな環境効果の例が少ない</li> <li>・ 今後拡大が見込まれる分野について、優先的にネガティブな環境効果の記載を充実化させることが、リスクの効率的な回避に繋がるのではないか</li> </ul> </li> <li>■ 循環経済に係る事業の考え方の整理               <ul style="list-style-type: none"> <li>・ 資源循環に係る事業の多面的な評価、国際的な議論との整合性</li> <li>・ 循環経済に係る事業が複数の大分類に別れており分かりにくい</li> </ul> </li> </ul>